

## 米国 9月の急減はハリケーンとストによる一時的な動き(08年9月鉱工業生産)

発表日：2008年10月16日(木)

～特殊要因を除けば前月比▲0.1%と小幅減少にとどまったものの今後調整が深まる見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

03-5221-5001

○9月の鉱工業生産は前月比▲2.8%と減少幅が74年12月以来の大幅なマイナスとなり、3ヵ月連続の減少(市場予想同▲0.8%)。ただし、ハリケーンによって2.25%、ボーイングのストライキによって0.5%押し下げられており、これらの要因を除けば前月比▲0.05%と小幅の縮小となる。公益が拡大したが、ハリケーン、ストライキによって鉱業、製造業が大幅に減少した。稼働率は生産能力が前月比+0.1%と拡大したが、生産が同▲2.8%となったため76.4%(8月78.7%)と前月から大幅低下した。

○9月の製造業生産もストライキ、ハリケーンの影響によって前月比▲2.7%と減少幅が拡大、生産の拡大した業種数も19業種中2業種(前月7業種)と減少した。自動車、アパレルだけが拡大。9月の生産統計はハリケーン、ストライキといった特殊要因によって大幅に下振れたため実体を示していないものの、住宅関連、繊維関連など弱い需要の影響を受け製造業は調整局面にある。稼働率は74.5%と低下した。

○足元まで、唯一堅調さを維持していたハイテク部門では、半導体が前月比+0.1%、コンピューターが同+0.9%、通信機器が同+0.8%と増加したためハイテク生産全体で同+0.5%(前月同+0.1%)と拡大ペースが加速した。もっとも、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+6.0%(前月+7.4%)とハイテク生産のモメンタムは急激に弱まっている。

○今後の生産活動に関しては、特殊要因が剥落すれば一時的に押し上げられるものの、7月までのインフレ加速やグローバル・ファイナンシャル・クライシスの影響によって海外景気の大幅な減速が予想されること、住宅関連需要の鈍化、価格競争激化による繊維関連での生産調整が持続すること、自動車販売の落ち込みに伴い自動車メーカーがピックアップなどの生産を削減する予定であることから、10～12月期以降の生産の基調は一段と弱まると見込まれる。

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)							設備稼働率	生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	製造業 (NAICS)	生産能力	
08/01	+0.2	(+2.5)	+0.0	▲0.7	+2.4	+0.4	▲0.3	▲1.7	+81.0	+79.1	+0.1
08/02	▲0.3	(+1.6)	▲0.6	+0.4	+1.6	+2.2	▲0.7	▲1.0	+80.7	+78.5	+0.1
08/03	▲0.2	(+1.5)	+0.1	+0.3	▲3.4	+2.9	+0.0	▲4.8	+80.4	+78.5	+0.1
08/04	▲0.5	(+0.4)	▲0.8	+0.1	+1.5	+1.9	▲1.1	▲6.2	+79.9	+77.7	+0.1
08/05	▲0.1	(+0.3)	+0.1	+0.2	▲2.2	+0.1	+0.0	+0.5	+79.7	+77.7	+0.1
08/06	+0.1	(+0.1)	▲0.1	+0.1	+1.8	+0.5	+0.1	+4.3	+79.7	+77.5	+0.1
08/07	▲0.0	(▲0.5)	+0.0	+1.6	▲2.0	+0.9	▲0.2	+2.6	+79.6	+77.5	+0.1
08/08	▲1.0	(▲1.4)	▲0.9	▲0.0	▲3.1	+0.1	▲0.9	▲11.3	+78.7	+76.6	+0.1
08/09	▲2.8	(▲4.5)	▲2.7	▲7.8	+2.2	+0.5	▲2.2	+1.9	+76.4	+74.5	+0.1

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

